

三重県農林水産試験研究ビジョン

はじめに

1 研究ビジョン策定の必要性

- **農林水産業は**、地球温暖化、生産者の減少による生産基盤の弱体化、新型コロナを契機とした生産・消費の変化など、**さまざまな課題に直面**
- 国は、「**みどりの食料システム戦略**」で、農林水産業の生産力と持続性の向上を図るため、**イノベーションの創出を推進**
- 本県でも、「**みえ元気プラン**」などに基づき、**持続可能な農林水産業を実現するためには、新技術の開発が重要**
- こうした状況をふまえ、**4 研究所では、着実に技術開発を進めていくため、今般、「研究ビジョン」を策定する。**

2 期間

令和5年度～8年度の4年間

第1章 試験研究機関の役割と推進方向

1 試験研究機関の果たす役割

- **政策課題への適切な対応**
- **食料自給率や地球温暖化などの中長期的な課題への対応**
- ➔ 地域に根ざした農林水産研究を推進することにより、**農林水産業および農山漁村の再生・振興と、地方の新たな産業や雇用の創出**といった地方創生に寄与

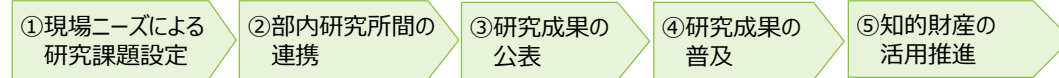
2 研究推進の基本方向

- 産業振興と環境配慮**の視点に沿って、三重の農林水産業を支える革新的技術の開発を進める
- 行政、普及および生産現場など各方面からの要請に対応
 - **スマート化など生産性の向上に向けた技術開発**
 - **多面的機能の維持・向上に向けた技術開発**
 - **危機に対応できる生産資材の自給体制の構築に向けた技術開発**
 - **「みどりの食料システム戦略」に対応した技術開発**

第2章 試験研究推進のための方策

1 現場と一体となった研究成果の普及

- 試験研究機関と普及組織が連携し、研究成果を農林漁業者や関係団体等に速やかに普及



2 研究ビジョンにおける人材育成

- **基本的な考え方：**
 研究員として**社会貢献する「責任感」と「自立性」、「チャレンジ精神」**を醸成
 広い視野と行動力を持ち、研究だけでなく**農林水産業に携わる職員として活躍できる人材を育成**
- **育成方法：**
 ・①OJT ②OFF-JT ③自己啓発の3本柱による人材の育成
 ・4 研究所間で実施する若手成果発表会、統計研修会、分析機器等の融通による人材の育成
- **各研究所の人材育成方針：**
 それぞれの分野が策定した人材育成方針をふまえ、今後、各研究所で具体的の方針を作成

第3章 試験研究機関別の研究ビジョン

1 現状認識と重点研究項目

- 本県の農林水産業従事者は65歳以上の割合が極めて高く、2030年の従事者数は半減することが予測されており、**本県農林水産業の持続的な発展のためには、競争力のある担い手の確保・育成が大きな課題**
- 担い手の「**収入の確保**」と「**従事しやすい労働環境の整備**」が必要不可欠であり、生産性の向上を図るためには、「**省力化や効率化に向けたスマート技術の開発**」、「**気候変動に適応した持続的生産技術の開発**」等の取組が必要
- **4 研究所では、これらの政策課題の解決に向けて、各所の重点研究項目を設定し、それぞれの研究所が有するノウハウの共有はもとより、工業研究所や国研究機関・大学等とも連携して研究に取り組む**

農業研究所

* 赤字は注力する項目

ア. 高付加価値化の推進

- (ア) **水田農業における新品種**の開発と導入（米など）
- (イ) **園芸作物における新品種**の開発と導入（イチゴ、ナバナなど）
- (ウ) 実需者ニーズ等に適合する商材の開発（薬用植物など）



種子繁殖型イチゴ品種

イ. 省力・高収益農業の推進

- (ア) **スマート技術を生かした省力栽培技術の開発**
- (イ) 熟練農業者の技術の見える化
- (ウ) 大規模経営体に導入する高収益・安定生産技術の確立

ウ. 持続可能な農業の推進

- (ア) **温暖化に適応する品質向上技術の開発**
- (イ) **農薬の低減を図る病害虫管理技術の開発**
- (ウ) **環境負荷の少ない肥培管理技術の開発**
- (エ) **需要の拡大が期待できる有機農産物の生産技術の確立**
- (オ) 獣害低減技術の確立

エ. 多様な担い手の確保・育成

- (ア) 効率的な労務管理と労働安全基準の作成
- (イ) 障がい者などの活躍につながる支援手法の開発

畜産研究所

ア. 畜産業の競争力強化

- (ア) 畜産物の品質向上に向けた飼養管理技術の開発
- (イ) **子牛や飼料の安定供給技術の開発**
- (ウ) **家畜の健康などに配慮した管理技術の開発**
- (エ) **分娩の遠隔監視等スマート技術の開発**



黒毛和牛未経産雌牛



乳牛の健康管理



熊野地鶏

イ. 環境に優しい畜産業の推進

- (ア) **メタンなど温室効果ガスの排出削減技術の開発**
- (イ) 堆肥など畜産副産物の活用
- (ウ) **エコフィードなど未利用資源の活用**



食品系残渣の飼料活用

林業研究所

ア. 持続可能な林業、木材産業の推進

- (ア) **リモートセンシング技術などスマート林業の推進**
- (イ) **木材の生産・流通コスト低減技術の開発**
- (ウ) 県産材の活用技術の開発
- (エ) **きのこなど特用林産物の生産技術の開発**

イ. 災害に強い森林づくりの推進

- (ア) 災害に強い森林の育成技術と防災・減災評価手法の開発



樹木根系の破壊抵抗力調査

ウ. 緑の循環による森林の多面的機能の発揮

- (ア) **育林・育苗の低コスト化技術の開発**
- (イ) **野生鳥獣や病害虫による森林被害の低減技術の開発**



高品質なコナラ苗

エ. 次代を担う林業人材の育成

- (ア) アカデミー講座における研究成果などの情報共有
- (イ) 森林教育の推進に向けた検証方法の開発



アカデミー講座への反映

水産研究所

ア. 省力・高収益水産業の推進

- (ア) スマート水産業の実証体制の推進
- (イ) **スマート技術の開発及び現場実装**

イ. 気候変動に適応した水産業の推進

- (ア) **魚介類の種苗生産・育種技術の開発**
- (イ) **魚介類の養殖・へい死対策技術の開発**
- (ウ) 漁場環境のモニタリングと赤潮予測技術の開発
- (エ) 魚病のまん延防止に向けた技術開発

ウ. 水産資源の維持管理と増殖

- (ア) **漁海況のモニタリングと情報提供**
- (イ) **高精度な水産資源の評価**
- (ウ) 効果的な栽培漁業と資源増殖技術の開発
- (エ) **藻場の現状把握と減少要因・対策の検討**
- (オ) 内水面資源の保全と活用



伊勢湾産ハマグリ

エ. 高付加価値化の推進

- (ア) 水産物のブランド化・高品質化に向けた技術開発と支援
- (イ) 未・低利用水産資源を活用した商品開発に向けた技術支援

4 研究所の連携による「持続可能な農林水産業」の実現